

「TDM 研究」投稿規定

(2016年9月1日改訂)

TDM 研究誌は、種々の薬物治療分野における TDM, 薬力学, 薬物動態学に関する学術論文を掲載する。本誌は多様な領域を対象としており, 基礎薬理学の研究者並びに薬物治療に関わる薬剤師, 臨床検査技師, 臨床薬理学者, 医師等に情報交換の場を提供する。原稿は, 医薬品の開発, 分析法, 作用機序, 有効性と安全性, 体内動態, 相互作用に関するものを含み, 有害事象や毒性反応, 環境, 栄養, 病態などの薬物作用の影響因子に関するものも審査対象とする。

1. 投稿原稿の種別, 言語

1-1 投稿原稿の種別は, 原著論文, 総説論文, 症例報告, 短報, 学会・セミナー記録, 国際学会報告, 講座紹介などとする。

1-2 言語は, 日本語または英語に限る。

2. 投稿資格

投稿原稿は, 日本 TDM 学会の会員, 非会員の別に関わらず投稿することが出来るが, 筆頭著者が非会員の場合は 4-5 の手順により投稿料の納付を必要とする。原著論文, 総説論文, 症例報告, 及び短報については, 形態を問わず部分的であったとしても他誌へ掲載されたり審査中のものであってはならない。ただし, 学術集会の要旨として掲載されたものや掲載予定のものはこの限りではない。

3. 著作権

本誌に掲載された論文等の著作権は, 日本 TDM 学会に帰属する。採択が決定した論文については, 著作権譲渡に関する書類への署名が必要となる。公表後の論文内容は, 本会及び著者への書面による承諾を得なければ, 複製や他の媒体への転載はできない。

4. 投稿手続き

4-1 投稿は原則として電子投稿システムを利用し, 日本 TDM 学会ホームページの電子投稿サイト (<https://sv40.wadax.ne.jp/~e-cme-jp/tdm/ec/index.php>; ID・パスワードは, 電子投稿サイトまたは TDM 研究誌の最新号の奥付を参照) から, [学会誌] > [電子投稿サイト] > [新規に投稿する], を開き, 必要ファイルをアップロードすること。

4-2 ヒトを対象とする研究で倫理的配慮が必要な場合は, 倫理委員会の承認書類 (研究課題名, 承認番号記号等, 承認日を含む) の PDF ファイルをアップロード (PDF 化が困難な場合は, 編集事務局まで FAX 送信: 059-232-1201) すること。介入を伴う臨床研究の場合は, 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成 26 年 12 月 22 日 文部科学省/厚生労働省) に定められた公開データベースに研究概要を登録する。動物を用いた研究では,

動物愛護の観点から適切な実験計画を立て、全実験期間を通じて飼育と処置に配慮すること。

- 4-3 原著論文、総説論文、症例報告、短報を投稿する場合は、日本 TDM 学会利益相反 (COI) マネジメント規則に定める様式 2 (COI 自己チェックリスト) により、著者全員の COI 状態を確認し、COI 状態を引用文献 (References) の前に記載すること。
- 4-4 英文論文を投稿する場合は、ネイティブスピーカーによる英文チェックを受けたことを証明する書類の PDF ファイルをアップロード (PDF 化が困難な場合は、編集事務局まで FAX 送信: 059-232-1201) すること。
- 4-5 筆頭著者が本学会非会員の場合は、電子投稿による原稿の提出が完了し仮受付番号を取得後、投稿料 8,000 円を日本 TDM 学会所定の口座 (京都銀行 山科支店、普通口座 **4186886**、**一般社団法人日本 TDM 学会代表理事上野和行**) に振り込み、1) 連絡著者名、2) 原稿受付番号、3) 施設名、4) 振込人名 (連絡著者名と異なる場合)、5) 振込日を E メールで学会事務局 (tdm.jimu@gmail.com) 及び編集委員長 (okudam@doc.medic.mie-u.ac.jp) 宛に送信する。原稿の受付後は、いかなる理由があっても投稿料は返却しない。
- 4-6 カバーレターに、1) 論文内容がたとえ部分的であっても他誌に掲載されたり審査中でないこと、2) 全著者が研究の立案、遂行、解析又は原稿執筆に貢献し、最終原稿を確認し投稿に同意していること、3) 倫理に関する配慮 (必要な場合) を明記し、電子投稿システムを用いてアップロードすること。

5. 原稿の審査及び掲載順

- 5-1 上記手続きの完了が確認できた日を論文受付日とし、審査を開始する。
- 5-2 投稿原稿の採否は 2 名以上の専門家の査読意見を参考にして編集部において決定する。
- 5-3 審査の結果、修正原稿の提出を求められた場合は、通知日から 2 か月以内に修正原稿と、個々の査読意見に対する著者の回答をまとめたファイルを、電子投稿サイト [学会誌] > [電子投稿サイト] > [再投稿する] にアップロードする。
- 5-4 論文内容のねつ造や盗用、多重投稿等、学術論文としての公正性を著しく損なう行為が判明した場合は、審査中であれば却下、採択後であっても掲載を撤回する場合がある。
- 5-5 採択論文の掲載順は、原則として論文の採択順とする。

6. 原稿の構成

- 6-1 原稿の長さと余白：原著論文は組上がり 6 頁まで (表題, Abstract, 要旨, 本文, 引用文献, 図表を含め 12,600 字以内), 総説論文は組上がり 8 頁まで (16,800 字以内), 症例, 短報は組上がり 3 頁まで (6,300 字以内) とする。A4 判縦位置, 横書きとし, ダブルスペース (行間 2 行), 上下左右の余白は 2.5 cm 程度とすること。ただし, 図表は 1 枚あたり 400 字としてカウントする。
- 6-2 言語・略語：本文のフォントは明朝体 (和文) または Times 系 (英文), タイトル及び見出しはゴシック体 (和文) または Arial 系 (英文) を用い, 大きさは 12 ポイントとする。**見出し番号はローマ数字を用いる**。論文を和文で記述する場合は, 用語も出来るだけ和文

を用いる。但し、引用文献、人名、薬品名、地名は原語を用いる。略語及び一般的でない記号は、最初に用いた際に本文中に定義する。図表のタイトルと説明文は、同一論文内では、和文または英文のいずれかに統一すること。

- 6-3 度量衡： 度量衡はメートル法を用い (km, m, cm, mm, μ L, mL, kg, g, mEq/L, μ g/mL など), 数字は算用数字を用いること。
- 6-4 構成： 原著論文及び症例報告は、原則として以下の構成とする (必要に応じて項目を統合してもよい)。各項目は新しい頁から始め、すべての頁の下部中央に通し番号を振ること。本文中の大見出しにはローマ数字大文字で番号を付し、小見出しを使用する場合は、アラビア数字で番号を付すこと。
- 1) 原著論文： タイトル (Title), Abstract (英文), 要旨 (和文), はじめに (Introduction), 方法 (Materials and Methods), 対象 (Subjects), 結果 (Results), 考察 (Discussion), 利益相反 (Conflict of Interest), 引用文献 (References)
 - 2) 症例報告： タイトル (Title), Abstract (英文), 要旨 (和文), はじめに (Introduction), 症例 (Case), 考察 (Discussion), 利益相反 (Conflict of Interest), 引用文献 (References)
- 6-5 タイトルページ： 論文タイトル, 著者の氏名 (連絡著者の右肩に*印を記載), 全著者の所属機関名及び所在地を和文及び英文の両方で記載する (著者が複数の場合は所属ごとに著者名の右肩に算用数字を記載する), また連絡著者名, 連絡先, E-mail アドレス, 電話番号, FAX 番号を和文で明記すること。
- 6-6 Abstract・要旨： Abstract (英文) は 250 語以内, 要旨 (和文) は 400 字以内とし, 単独で論文の内容が分かるように記載すること。
- 6-7 Keywords・索引用語： Keywords 及び索引用語 (3~6 語) を, それぞれ Abstract 及び要旨に続けて記載すること。
- 6-8 図表：
- 1) 図表は論旨に必要なものに限り, 1 頁あたり 1 点に限る。
 - 2) 図表はそれぞれ掲載順に算用数字で通し番号を付し, 本文中欄外に挿入箇所を明示する。
 - 3) 図表は白黒を基本とするが, 特に必要な場合はカラーで作成することができる。ただし, カラー印刷にかかる費用は著者負担となるので注意すること。
 - 4) 図及び写真はそのまま印刷できる鮮明なものを用いる。原則として横幅 8 cm (原稿の 2 段組本文の 1 段と同じ幅) もしくは 16 cm になるように印刷されるため, 縮尺を考慮して見やすく作図すること。
 - 5) 図のタイトルと説明文は, 図とは別の頁にまとめて記載し, 表には内容を端的かつ十分に表現するタイトル及び説明文を添えること。
- 6-9 引用文献：
- 1) 主要なものに限り原著は 25 編以内, 総説は 50 編以内とし, 本文中の引用順に 1), 2), 3) の番号を付け, 上付きで配列する。インターネットアドレス (確認年月日を含める), 講演要旨集, 公文書等の引用も引用文献欄に記載し, 本文には記載しない。
 - 2) 記載方法は, 以下の通りとする。

- ・ 著者数が 6 人以下の場合は全著者名を記載し、7 人以上の場合は最初の 3 人のみを列記し、「ほか」または"et al."を附記すること。
- ・ 外国誌は PubMed による略誌名を用いること。
- ・ 記載方法の詳細が不明の場合は、「生物医学雑誌への統一投稿規定」の引用例 (http://www.nlm.nih.gov/bsd/uniform_requirements.html) を参照すること。
- ・ 雑誌：著者名. 標題. 雑誌名. 発行年（西暦）；巻数: 最初頁－最終頁（通巻頁数）.
 - 例 1) 平田純生, 和泉 智, 田中一彦. 腎不全専門病院の病棟活動と TDM. TDM 研究. 1999; 16: 319-324.
 - 例 2) Tanigawara Y, Nozawa K, Tsuda H. Optimal dose finding of garenoxacin based on population pharmacokinetics/pharmacodynamics and Monte Carlo simulation. Eur J Clin Pharmacol. 2012; 68: 39-53.
- ・ 単行本：著者名. 書名. 版数. 発行地: 出版社; 発行年. 引用最初－最終頁.
 - 例 1) 単行本－個人著者の場合
 - 加藤隆一. 臨床薬物動態学, 改訂第 4 版. 東京: 南江堂; 2009.
 - Rowland M, Tozer TN. Clinical Pharmacokinetics: Concepts and applications, 3rd ed. Philadelphia: Williams & Wilkins; 1995.
 - 例 2) 単行本のある章
 - 樋口 駿. 抗躁薬 リチウム製剤. 伊賀立二, 乾 賢一 編集. 薬剤師・薬学生のための実践 TDM マニュアル. 東京: じほう; 2004. p. 231-244.
 - Dowling TC. Quantification of renal function. In: Dipiro JT, Talbert RL, Yee GC, Matzke GR, Wells BG, Posey LM eds. Pharmacotherapy: A pathophysiologic approach, 7th ed. New York: McGraw Hill; 2008. p. 705-722.
- ・ インターネット：著者または団体名. タイトル. (インターネットアドレス) 発行年 (確認年月日)
 - 例) Food and Drug Administration. Guidance for Industry Drug Interaction Studies - Study Design, Data Analysis, Implications for Dosing, and Labeling Recommendations DRAFT GUIDANCE. (www.fda.gov/downloads/Drugs/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/UCM292362.pdf) 2012 (2012 年 9 月 1 日確認).

7. 別刷の発注及び著者校正

別刷は著者校正の返送時に 50 部単位で希望部数を朱書して申し込み, 費用は著者の負担とする。
著者校正は 1 回とする。

8. 編集に関する問合せ先：

〒514-8507 津市江戸橋二丁目 174 番地 三重大学医学部附属病院薬剤部内
『TDM 研究』編集部 奥田 真弘
E-mail : okudam@doc.medic.mie-u.ac.jp